Newsweek 日本版 2022 年 9 月 13 日号に、本間のインタビューが掲載されました。

Newsweek 日本版公式　→　https://www.newsweekjapan.jp/magazine/405487.php

日本と中国で活躍する建築家が勧める、
暮らす人の考えや生活に寄り添う家づくり。

戸建住宅を建てる場合、多くの人はハウスメーカーや工務店と契約する。その後、これらの会社から基礎や大工、電気、内装といった工事が、それぞれの専門工事業者に発注される。こうした「括発注方式とは方法が異なるのが、CM（コンストラクション・マネジメント）分離発注方式だ。「日本でもこの方式が定着することを願っている」と語るのが、株式会社本間総合計画の代表取締役である本間貴史氏だ。

CM分離発注方式とは、建設会社を通さずに、施主（建築主）がそれぞれの工事を各専門工事業者に直接発注する方式を指す。個人住宅では20以上の工種があり、一般の人がそれだけの数の専門工事業者を見つけて契約するのは容易ではない。そこで活躍するのが、CMR（コンストラクションマネージャー）と呼ばれる専門職だ。誰に設計を依頼すればいいのかといった相談に乗るなど、施主と伴走するかたちで支援を行う。

「CM分離発注方式はアメリカで発達し、日本で

いないため、私は小規模な工事を伴う建物へのCM分離発注方式の導入に取り組んでいます。

最大のメリットは、各工事の価格が透明化され、結果的にコストダウンにつながること。また、施主が専門工事業者と直接やり取りするため、こだわりを反映しやすい。いっぽう、施主には最低限の知識が求められ、手間のかかる作業も発生するが、家づくりに深く関われることが大きな特徴といえる。本間氏はこの方式の普及に努め、2020年には書籍『理想の注文住宅を建てたい！価格の見える家づくりの教科書』を上梓した。

「もちろん、一括発注方式のほうが適しているお客様もいます。まずは多様な方式があることを知ってもらい、お客様が選べるようにしたい。家は、買うものではなく、建てるものなので、多少の苦労は生じるものです。家づくりに深く関われば、住まい方にも興味を持つことができ、お客様にとってもプラスになるはずです。日本

そ

害者や高齢者向けの居住空間に力を入れていることだ。たとえば、脊髄小脳変性症は小脳と

ビ番組『大改造!!劇的ビフォーアフター』に、匠として8回出演。その後、仕事で上海を何度か訪れたことが転機となった。経済が急速に発展する姿を目の当たりにし、2016年に中国への進出を果たした。

「中国は日本より約30年遅れで高齢化が進んでいます。日本で培ってきたバリアフリー化の設計技術を生かして、さまざまな疾患に苦しんでいる人たちのための設計を行っています。これまで中国では、脊髄小脳変性症の息子さんや自閉スペクトラム症の娘さん、認知症の高齢者がいる家庭の住環境の整備を行いました。同じ疾患でも個人差があるため、それぞれの症状について詳しく分析し、設計に取り入れる必要があります」

の言葉通り、本間総合計画の特徴のひとつが、障

作品ではなく、そこに住む人の

問題解決がテーマ

株式会社本間総合計画　https://www.hom-ma.co.jp/

CHALLENGER

The Extra Edge
世の中のトレンドをリードする
話題のモノ、ヒト、コトなどを紹介

本間貴史

HOMMA TAKAFUMI
株式会社本間総合計画 代表取締役

1969年宮城県生まれ。国立宮城高専卒業後、1991年に株式会社本間総合計画を設立。一級建築士として住宅や商業施設などの設計に携わり、2001年よりCM分離発注方式に取り組む。2016年に上海事務所を設立し、海外でも活躍するほか、日本と中国でのテレビ出演や講演の実績も豊富。

きる仕組みが必要だと考える。

「一助となっているのが、テレビ番組に出演し情報を発信すること。そして、それを基に進化させていくことが大切です。

中国ならではの課題もあります。中国では建築と内装の領域が分かれていて、構造力学など